

# 力をつける

今日の言葉

## 日常の充実=安定

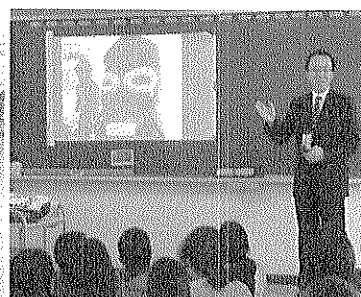
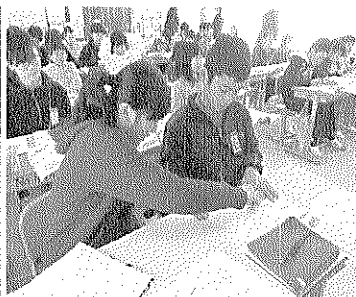
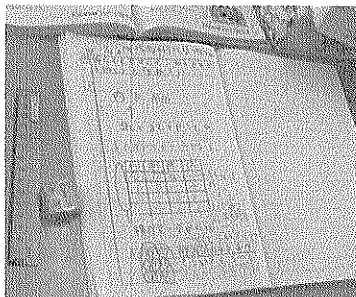
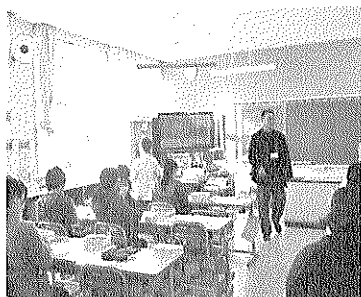
6B片山学級に

平成29年1月23日

## 北海道&神奈川&広島よりお客様が来られました

### ご報告その4

新井先生@神奈川県二宮町教育委員会のご感想 その2



新井先生目線の片山学級 その2

#### 【片山先生】

##### ・学級にて

片山学級を1時間目（算数：組み合わせ）と3時間目（社会：内閣）を参観させていただきました。大きな声は出しません。指示も発問も端的で短いです。授業の終わり3分前には振り返りを書かせます。3時間目が始まる前には、机の上には歴史人物カルタが並べられています。授業開始と同時にカルタがスタート。その様子を見守りつつ、授業準備を進める片山先生。ときどきはおやしギャグも放ちますがスルーする子供たち。片山先生を信頼しつつも、いじったり、命令したり（！）する子供たち。愛し愛されている様子でした。

##### 片山語録

「さあ、では、始め」（授業最初の一言。すぐに予習してきたことを確認し合う子供たち）

「予習やってきた人」（みんな手を挙げる）

「やることは？」（口々に答える）

「昨日は3通りの方法を知りました。何と何と何ですか」（ノートを繰る子供たち）

「図でやると難しいね。お助けには何て書いてある？」（教科書に戻らせる）

「今日の宿題はここ。何分ぐらいでできそう？」（「1分！簡単だもん」と子ら。オフィシャル宿題は少ない。予習とじみノートで1時間以上は勉強している）

「さん、はい」（全員が一斉に読む）

「今日は二つやることがあったんだね」（授業後半で問題文と今日のめあてに戻らせる）

「（内閣の写真を見せて）何が見えますか？」

「何人ぐらいいますか？」

「どうやって選ばれたんでしょう？」

「施行、難しい言葉だね。どういう意味？」（子供たち、すぐに辞書を手に。調べたら付箋を入れる。）

「続きはじみノートで」（さりげないテーマの提示）

「自分の言葉で書けるかな」

「いい姿勢になるといいね」

「はい、それではどうぞ」（話し合いの促し）

「隣の人と」（話し合いなさい、などの細かいことは言わずに子供が動く）

##### ・学年にて

素晴らしさは、学年の雰囲気からも感じました。廊下にノートの優秀作品が掲示されています。年賀状も模造紙サイズで拡大コピーで貼られています。教室の掲示物も同じものがあります。クラスで揃っているところ、工夫しているところのメリハリが心地よいです。片山先生のBクラスを挟んでA・Cクラスが、ただ真似をさせられているのではなく、それぞれのクラスの良さが発揮されていました。（続く）



# 力をつける

今日の言葉

初期の丁寧な指導が  
後期の子どもの自動化へ繋がる

6B片山学級に

平成29年 7月24日

## 北海道 & 神奈川 & 広島よりお客様が来られました

### ご報告その5

新井先生@神奈川県二宮町教育委員会のご感想 その3

#### ・学校にて

4時間目には、5年生の先生（大森先生）が算数の授業を公開してくださいました。私的な訪問なのに公開して下さったことに感謝です。片山先生の信頼の厚さを感じました。テンポよく、密度濃く授業は進んでいきました。5年生の難関単元、割合です。教科書は啓林館。関係図、立式、線分図。ノートを書きながら、左手で挙手して発言する子供たち。一年間を振り返ることのできる温かい教室掲示。とても鍛えられている学級でした。

放課後には、ミニミニ研修会が。片山先生がニコニコと見守る中、1年生の先生が模擬授業をされました。前回の検討からの改善点を示し、悩みどころを相談されました。参加されている先生の意見を片山先生が引き出されていました。短い時間にパッと集まり、パッと散会する仕組みです。ワークライフバランスまで配慮されていました。

#### 【新保先生】

今回の岡山行は新保先生の振る舞いを盗むことも隠れミッションでした。山陽東小の先生方にご挨拶するとき、誰よりも深く長くお辞儀をされていたのが新保先生でした。教室に入って真っ先に子供たちに話しかけていたのが新保先生でした。（窓が開いているのを発見して真っ先に閉めたのも新保先生でした）発寒西小の先生に話しかけるタイミング、話しかけ方、ミニミニ研修会での発言など、一つ一つの振る舞いを感じることでできて大変勉強になりました。

#### ・雪の授業

5時間目は新保先生による「雪の授業」でした。ABC、ミクラスの児童が1つの教室に集まって話を聞きます。防災頭巾はないので教室の床に直に座っています。78人が1つの教室に集まっているのですから、子供たちには窮屈な思いをさせたのではないかと思います。とても集中して話を聞いていました。新保先生は黙って子供たちの前に立ち、板書をしてから、授業に入りました。まずは年齢紹介。8才と書いて、10の位を当てさせます。誰かを指名するのではなく、新保先生が「1、2、3、…」と示し、自分の思ったところで手を叩かせます。「1（つまり18歳w）」のところで叫んだ愉快な子には満面の笑みで近づいていき握手。これで、子供たちの気持ちはぐっと温まりました。次に、札幌の位置を「右右右、下下下」など誘導させてポインタで示します。拍手や声出して全員が参加する授業形態でした。ご自分のことを「嘘つき先生です」「拍手が大きいとやる気が出ます」などとおっしゃり、子供たちをその気にさせます。ところどころで「明日から札幌に引っ越します？」という問いを投げ、皆に考えさせます。札幌の除雪のすごさを高梨沙羅選手の言葉を引用して説明。それでも危険と隣り合わせの通学風景。校庭のスキー山。より寒さが厳しいハバロフスクと札幌の降雪量の違い。海との関係。雪の結晶の話。「絶対引っ越さない」と言っていた女の子が「引っ越す」へ心変わりするミラクル。新保マジック全開でした。

#### 【ゲストトーク】

6時間目は、それぞれの学校や地域の話の時間でした。目をキラキラさせて、真剣に聞いてくれる子供たちを前にどの話者も熱が入り時間オーバー。下校時刻に食い込む事態に。「子供たちが本当に楽しそうでした。」と喜んでくださった隣のクラスの先生の言葉が救いでした。控室で新保先生が「みんな自分が話し上手になったと思っているでしょ。ゲストトークはそれだけで子供たちがノッてくれるんだから子供たちのおかげ。自分の実力だと思えば大げがするよ(笑)」と戒めてくださいました。

#### 【番外：学校施設】

屋根はあるけれども、扉のない昇降口に衝撃でした。1階の廊下は風が入ります。なのに、廊下の窓はどこも開いている。（片山学級は教室にも授業時間中も開いていまして、北海道チームは凍えていました。）教室にはインターホン。授業中でも鳴ります。（身体計測そろそろ来てください、とか。）施設はされていますが子供たちも上れる屋上。隣には市立の幼稚園。児童数が増えているので、教室も増。学年でフロアが分かれてしまっているところも。トイレにはトイレ用スリッパ。中学年までは、スリッパを揃えておくためのガイドがありますが、高学年のトイレにはありませんでした。授業時間ごとに鳴るチャイム。防災頭巾はありません。子供によっては小さな座布団を椅子にセットしていました。



# 力をつける

今日の言葉

「教材の拡大率」で  
教師の腕が分かる

6B片山学級に

平成29年 1月24日

## 北海道 & 神奈川 & 広島よりお客様が来られました

ご報告その6

石黒先生@北海道札幌市立発寒西小学校のご感想 その1

### 1 ICTの効果的な活用

片山先生は、日常からICTを活用しています。ICTは得意・不得意に関係なく学校全体で日頃から活用しているのだと視察を通して感じました。先日、堀田先生から『映すときにどれくらいズームするかは、教師の力量が表れるところです。』とお話をいただきました。片山先生は、投影機の拡大率が大変高いです。例えば、社会科『内閣の組織図』の学習では、各省庁がどのような仕事をしていて、どのようなポストがあるのかを全て扱っては時間がなくなります。『外務省』『文部科学省』『財務省』など、子どもでも掴みやすい省庁にクローズアップして取り上げることで、内閣の役割を抑えていました。このように多数の資料がある場合、どの資料のどこを大きく映し焦点化するかを、吟味することが大切だと分かりました。また、青の画用紙を台紙として活用していました。『指示をしっかりと的確に通す』ためには、子どもの集中力を妨げない工夫が必要です。細かいことだけれど、教師が気を配らなければならない工夫だと思いました。

### 2 漢字の勉強を通して、学び方・覚え方を学ぶ

朝の時間に、新出漢字を学習しているクラスがありました。デジタル教材を使い、子どもだけで空書きに取り組んでいました。テンポ・手際が良く、大変安定感があり、毎朝繰り返しているのが伝わりました。大人になってからも新しい知識を取り入れる時に、書いて覚えようと思うのは、子どもの頃に漢字の練習の仕方と学び方を一緒に学んでいるからだと思えました。

### 3 片山先生と子どもの関係の安定感

片山先生は、優しく愛情あふれる先生だと感じました。しかし、仲良しであるが決してお友達の関係ではないとも思いました。教師は授業で子どもを育てます。45分間で子どもが学習内容を確実に理解するためには、無駄話をあまり拾わないような関係をしっかりと作っておくことも大切だと分かりました。「片山先生が言っていることをしっかりとやれば、成長できる。」「分かるようになる。」「力がつく。」など、自己有用感が片山先生の指導で実感できるから、子どもは絶大な信頼をしているのだと思えました。

### 4 札幌型と片山先生の板書の違い

先日、堀田先生から『札幌型の板書は格好良いが、ノートが取りにくい。』とお話をいただきました。事前に計画していた板書の完成にこだわりすぎて、演習に時間がなくなるのは札幌型の大きな課題です。片山先生の板書を見ていると、子どもがノートに書くことと、教えたことをできるだけ寄り添わせることが大切だと思えました。また、黒板の右半分は演習に使っていました。授業の軸は『話し合い』ではなく、『繰り返し解く』ことを大切にしている証拠です。今後は、板書を少しスタンダード寄りにしてみたいと思います。

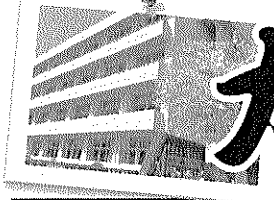
### 5 集中できる学習環境

机の上に置くものは、本校でもある程度統一されています。学ぶ組織として、これは必然だと片山学級を見て再確認しました。特に、机の上に国語辞典を置いていることには感動しました。国語辞典は、国語の時間だけではなく、すべての時間で使っていました。付箋が貼られていて、調べた場所や量が分かります。既存に捉われていたら、いつまで経っても学力差は埋まらず、広がる一方だと危機感を感じました。学校全体でも言語力や基礎基本の土台を大切にしているのが伝わり、ICTだけに拘泥しない点が素晴らしいと思えました。

### 6 授業の『量』と『質』

日常授業改善とは、今までと違うことをやる、突発的に何か良いことをやるではなく、もっと効率よく気楽に、そして、より子どもに分かりやすくやるための改善だと分かりました。いつも同じことをきちんとやり続けることが、いかに大事かを感じました。片山学級は『量』と『質』を大切にしています。その土台にあるのが、『予習』です。子ども全員が教科書の予習をします。青鉛筆を使い、大事な言葉を囲んだり、アンダーラインを引いたり、前日に学ぶことをしっかりとやって登校するから、自分が分かりたいポイントが事前に見えて授業に臨みます。意識の違いが分かります。結果として、先生の発問は『何をしっかりと話し合わせるのか』が非常にシャープではっきりしていました。吟味されていて、無駄がなくテンポよく進められていました。先生が分かりやすく教えるポイントと、子どもが思考するポイントを区別する必要があると思えました。

(続く)



# 力をつける

今日の言葉

「どこを隠すか」で  
教師の腕が分かる

6B片山学級に

平成29年 1 月23日

## 北海道 & 神奈川 & 広島よりお客様が来られました

ご報告その7

### 石黒先生@北海道札幌市立舜寒西小学校のご感想 その2

#### 7 まとめに

片山先生の日常授業改善を見て、本校でも3学期からすぐに取り入れたい実践例が多数ありました。

- ・学習のフォーマットを毎時間同じにする。
- ・提示するマークをそろえる。
- ・情報の整理がしやすい板書にする。

①教師は授業の前半をICTを使って効率よく進める。

②子どもは教えてもらったことを使って、演習を通して適応していく。

③すると、予習の時には生分かった知識が堅牢な知識になっていく。

④そして、身に付けた自分の物の見え方がどう変わったかを、ノートに1ページびっちり振り返る。

⑤更に、ドリルを使って復習する。

この他にも、音読したり、大事なポイントを復唱したりと声に出す場面がどの時間でも多くありました。それをする事によって、授業に参加できているか分かります。長年使われている方法ですが、集団で学ぶ時に、学習の効率を上げるのだと改めて感じました。

大変勉強になりました。心から感謝しております。ありがとうございました。

### 山本先生@北海道札幌市立舜寒西小学校のご感想

#### 1 学習規律

学習が始まる前に教科書・ノート・筆記用具・辞書がまっすぐに揃えてあり、どの児童もノートには日付などがきちんと書き込まれていました。学級としてのルールが教室の至る所にちりばめられていて、安心して学習に取り組むことができていたのと感じました。

#### 2. 授業構築（算数 場合の数）

本校では「45分間の中で、練習問題とドリルを終わらせる」ことを目標としていますが、なかなか上手くいっていないというのが現状です。それは我々の中に「どこまで教えて、どこを考えさせて」という考えがあるからだと思います。しかし、今回の片山先生の授業を見させていただいて、教科書を大切にしながら解き方・考え方を教えることが、児童にとって何よりも大切なのだと感じました。片山学級の児童は、問題が分かること・解けることの喜びを全員が味わっていました。

#### 3. 板書構成

板書と児童のノートがリンクしていることに驚きました。研究会などで見る板書では、右から左へ、上から下へと児童がどの順番でノートを取ればよいのかわからないものが多かったように思えます。片山先生の板書は、授業の流れ通りにまとめられていて、非常に分かりやすく、学習に集中できる手立てがここにも隠れていたのと感じました。

#### 4. 学習習慣

6Bの児童に聞くと「だいたい2時間ぐらい勉強している」という話でした。さらに驚いたのは「予習」です。教科書にはびっしりの書き込みがあり、予習で曖昧なところを授業で確認→理解→定着する「学びの流れ」ができていました。

今日から3学期が始まりました。早速、片山先生の実践を取り組み、子どもたちが安心して学ぶことができる授業を作っていきたいと思っております。大変勉強になりました。ありがとうございました。